

第6学年1組 国語科学習指導案

富士市立田子浦小学校

指導者 後藤 綾子

吉野 和美

1 単元名 メディアを学ぶ「ニュースを読み解こう」 10時間扱い

2 単元の目標

ニュース番組や新聞を読み解くことにより、メディアのもつ特徴を理解し、作り手の意図をとらえながら、自分自身の考えで情報を判断する力を身に付ける。

(1) 関心・意欲・態度

メディアについて理解するために、すすんで調査したり友達と話し合ったりする。

(2) 話す・聞くこと的能力

調べたことについて、自分と友達の考えとを比べながら話し合うことができる。

(3) 書くこと的能力

ニュース番組の特徴を表にまとめ、分かったことや感想を書くことができる。

読み取った情報から、ニュース原稿を書くことができる。

(4) 読むこと的能力

相手の意図をとらえながら情報を読み、それに対する自分の考えをもつことができる。

(5) 言語事項

既習漢字を正しく使ってニュース原稿を書くことができる。

3 単元観

今日のような「情報社会」とよばれる現代を生きる子どもたちは、日常も多くの情報に囲まれて生活している。様々なメディアから発信される情報は、子どもたちの必要の有無にかかわらず速いスピードで通り過ぎていく。そのため普段の生活の中では、情報の内容を特に気に留めることもなく受動的な受け止め方をしていることが多い。反面、メディアは大切な情報源でもあり、今や子どもたちにとってメディアなしの生活は考えられないものになっているのも事実である。そして子どもたちは、テレビから得た情報を信じ、情報そのものが作り手の位置付けや考え方で変化しているという事実をあまり認識していない。そのため調べ学習を行っても、本やインターネットからほんのわずかな情報を得ただけで満足してしまい、一部の情報を鵜呑みにしてしまう傾向にある。

メディア社会を生きる子どもたちにとって、メディアリテラシー（情報を主体的に読み解く力）を育成することはとても重要である。「人づくり」2010プランでも、メディアを主体的に読み解く能力を育成することは、現代の重要課題に対する教育の推進事項として、位置付けている。併せて、一人一人が情報とどう向き合っていくかということに対する自覚を促し、情報を扱う上でのモラルや責任感を育てることも必要だとされている。

以上のことを受け、子どもたちには、道徳や学級活動の年間指導計画に基づき、情報モラルの授業を行ってきた。ネット上における情報の広がりでの学習では、個人の流

した情報が世界中に広がっていく様子を知ったり、一度広まった情報は取り戻すことができないということを映像で理解し全員で話し合ったりすることで、責任をもって情報を発信する必要性を学んだ。また、ぐんぐんタイム（朝学習）の時間を活用して、「CMのターゲットはだれ？」というワークブックにも取り組んだ。この学習は、コマーシャルがターゲットにあわせて作られていることを知ったり、ターゲット以外の受け手にもメッセージを伝えていることに気付いたりすることをねらいとしたものである。ワークブックを進めるにつれて、子どもたちは、コマーシャルは買う人を意識して作られていること、コマーシャルには作り手の意図が込められていることを学んだ。また、知らず知らずのうちにコマーシャルの影響を受けていることに気づき、きちんと考えて商品やサービスを購入する必要性を学びとることができた。

このように、子どもたちは、身の回りの情報は相手を意識した作り手の意図が込められていることを少しずつ理解し始めている。本単元においては、普段何気なく接しているニュースに着目することで、情報を見つめる力やメディアを主体的に読み解く力を身に付けることが大切だと考える。

学習を進めるにあたり、教科書をもとにしながら、子どもの思考の流れを考慮し、単元を以下の通り4つの内容で構成した。

(1) メディアと情報について興味関心を高める。

メディアという言葉を知らない子どもが多いため、導入として最近のニュースの話題を挙げ、情報源は何であるかを考える。テレビや新聞、インターネット、携帯電話、ラジオなどが出てくるだろう。それらが「メディア」であることを知り、教科書の説明文を読み解く。48ページには「知ることができます」と書いてあるが、何を知ることができるのか、何で知ることができるのかなど、本文を丁寧に読み取りながら、「メディア」とは、「世の中あるさまざまな情報をわたしたちに知らせてくれるもの」であることを理解していく。特に身近なメディアであるテレビと新聞についてこれから学習していくことを理解し、学習の見通しを立てる。

新聞のテレビ欄を使って、実際にニュースは1日に何回くらい放送されているのか調べていく。印をつけていく中で、民間放送とNHKの違いやニュースの時間帯の工夫、視聴者を意識した位置付けなどに気づき、テレビニュースを観るきっかけとなるようにしたい。

(2) 本文から、メディアと情報について読み取る

教科書48・49ページの挿絵に着目し、同じ6位入賞のニュースなのに、なぜ女の子は喜んでいて、男の子はがっかりしているのか考える。テレビと新聞の伝え方に違いがある場合があることをおさえたうえで、そのことが書いてある文章を探す。教科書の本文を丁寧に読み取り、メディアから発信される情報は、選択・編集・加工されていることをおさえる。

(3) メディアの影響について考える

まず、情報を受け手としての立場で考える。最近1週間のニュースを拾い出し、自分が重要だと思ったニュースと家族や身近な人が重要だと思ったニュースを書

き出すことで、その違いについて考える。受け手によってニュースの受け止め方や解釈に違いがあることに気づき、その理由を考えていく。

新学習指導要領では、「読むこと」の中に、「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと」という言語活動例が提示されている。子どもたちは4月から朝の会で新聞スピーチを行ってきた。自分が紹介する記事の見出しや写真を実物投影機で大きく映しながら話し、聞き手はそのスピーチを聞いて思ったことを班ごとに発表している。ここではこの取り組みの効果が現れることを期待している。

次に、情報を作り手としての立場で考える。8月11日の駿河湾沖地震の新聞を取り上げ、全国版の新聞と静岡新聞を読み比べる。同じ出来事を記事にしているのに、使われている写真や取り上げている内容が大きく違うことを読み取り、受け手を意識した構成になっていることに気付かせたい。また、テレビニュースでも同じように、同時刻の2局を比べる。最初の5分間を録画したニュース番組を視聴し、ニュースの項目、映像、音声、テロップなどをカードに書き込む。同時刻の2局を比べることで、伝え方の工夫や特徴、伝え方の違い等に気付かせたい。

これらの活動を通して、

現在提供されている情報は、作り手の加工品であり、ニュースそのものが作り手の位置付けや考え方で変化していること

を理解させていく。つまり、情報は選択・編集・加工されている、という教科書に書かれている文を実際のニュースを読み解くことによって実感させ、わたしたちはメディアの影響を受けているということを理解させたい。

(4) 作り手となり、理解を深める

情報には作り手の意図が込められていることを理解した子どもたちが、ニュースの作り手を自ら経験することで、紙面や時間に制限があるなかで作り手が工夫していることに気付くようにしたい。また、作り手の意図によって、伝わり方に大きな違いがあったりすることを実感させたい。さらに、同じ出来事でも発信者が異なると、伝える内容が違うことにも気付かせたい。そして、メディアのもたらず限界を把握し伝え方の特徴を理解することで、主体的に情報を読み解こうとする態度を養いたい。

(5) 「放送記者坂井マヤ ～ストーリーをさがせ～」の本單元における活用について

メディアを主体的に読み解く力は、児童自らが送り手や受け手の立場を体験することで高まっていくと考える。

本單元で扱う「ニュースを読み解こう」に書かれていることを実感のある学びとしてとらえられるように、本單元の終末に「放送記者坂井マヤ ～ストーリーをさがせ～」を位置付けた。

一つの映像からある部分を切り取り、編集し、ニュースに仕上げる活動は、子どもたちには大変魅力的である。活動を通して、情報は全てを伝えることはできないことや、同じ出来事でも発信者が異なれば、いろいろな表現があることを理解しやすいと考える。

教科書の本文を読み解く

○メディアと情報について興味・関心を高める (1)

新聞のテレビ欄を読んで、気づいたことを話し合おう。

- ・知っているニュース番組を探す。
- ・ニュース番組に印を付け、気づいたことを発表する。

○本文と挿し絵から、メディアと情報について読み取る (1)

メディアとは、世の中の情報をわたしたちに知らせてくれるもの

Aテレビ

短い時間の映像と解説

B新聞

限られた文字数の記事

さまざまなきあがり方

メディアは、情報を選択・編集・加工している。

わたしたちはメディアから多くの影響を受けている。
発信者の意図をとらえ、自分自身の考えで情報を判断できるようにすることが大切。

実感をもとまって理解する

活動して考える

○メディアの影響について考える (5)

ニュースについて考えよう。

【情報の受信者としての立場で考える】

わたしたちはニュースをどのように受け止めているか考えよう。①

- ・1週間分のニュースを調べる。
- ・重要だと思うニュースを選ぶ。
- ・調べた結果について話し合う。

【情報の発信者としての立場で考える】

ニュースを比較しよう。④

新聞記事

駿河湾沖地震について、2社の新聞を比較する。

ニュース番組

台風のニュースについて、NHKと民間放送を比較する。

- ・個人によってニュースの受けとめ方に違いがある。
- ・同じ内容でも伝え方に違いがある。
- ・発信者は受信者を意識して情報を伝えている。

○発信者となり、理解を深める (3)

テーマにあったニュース原稿を作ろう ①

テレビニュースを作ろう ② <本時>

第6学年1組 国語科学習指導案

富士市立田子浦小学校

指導者 吉野 和美

後藤 綾子

- 1 日 時 平成21年12月4日(金) 第3校時(パソコン室)
- 2 単 元 名 メディアを学ぶ「ニュースを読み解こう」 (9/10時)
- 3 本時の目標 テレビニュース番組に使う映像を選び、映像にあった記事を書く。

4 授業構想

前時までに、子どもたちは、テーマにあったニュース原稿作りを行っている。そして、本時は、「放送記者坂井マヤ」の学習材を使ってテレビ記者としてニュースを作る活動である。これは、次時に行う「同じ出来事でも発信者が異なると、伝える内容が違うことや、そもそも情報社会におけるさまざまな情報は、いろいろな人が発信しているので、同じ出来事でもいくつもの情報の切り取り方がある」ことに気付く学習につなげるための活動として位置付けている。

はじめに、今までの学習を振り返る。ここでは、1週間分のニュース調べや新聞記事を比べた活動について話す子や、情報には発信者の意図がこめられているなど、活動を通して考えたことを話す子がいるであろう。前時と本時までの授業が離れているので、子どもたちの発言を大事に受け止めることで、学習したことをしっかり想起させたい。

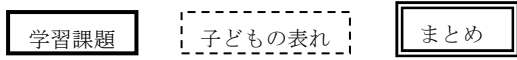
子どもたちの多くは、ニュース番組作りを大変な仕事だと思っている。そのため、自分たちには、作れないものだと考えている子どもが多い。しかし、E・Kさんのように、可能なら作ってみたいという思いをもっている子どももいる。そこで、E・Kさんの思いを取り上げながら、「テレビ記者になってニュースを伝えよう」という課題を設定する。実際に記事を作るためには、5W1Hが必要なこと、放送時間を設定すること、ニュースになる出来事が必要であることを子どもたちから引き出し、本学習材である「放送記者坂井マヤ」につなげていきたい。

本学習材は、火事について取材ができるようになっている。まず、火事の概要をつかむために、火災現場では何が起こったのかを調べることにする。ここでは、ペアになって互いの気付きを共有することで、より一層、火事の概要を把握しやすいようにしたい。概要がつかめたところで、1枚の映像からニュースとして伝えたい部分を選ぶ。大勢の人が混乱している情景や燃え盛る炎など、カメラフレームから見える情景を選ぶ活動は、子どもにとって大変興味深いものであると予想される。意図をもって映像が選択できるように、なぜ、その映像を選んだのかを子どもに問いながらすすめていきたい。原稿を書く段階では、映像にあった文章が書けるように、はじめに行った取材メモを活用し、言葉を選びながら30秒のニュース原稿にまとめていきたい。

最後に、できたニュースを伝え合い、お互いに感想を述べ合うようにしたい。

本時は、テレビ記者としてニュースを作ることが主な活動である。子どもが夢中になって活動できるように、ニュース作りの場面では、特に全体で話し合う場の設定は行わず、製作過程における子どものつぶやきや友達同士のかかわりなどをしっかり把握し、次時につなげていきたい。

5 予想される本時の追究



○児童の活動 ◎教師の働きかけ ☆研修とのかかわり (評) 評価

○前時までの学習を振り返る

- ・新聞記事を比べた。
- ・個人によって、ニュースの受けとめ方に違いがあることが分かった。
- ・情報は、作り手の意図がこめられていた。

○テレビニュース番組の映像を選び、記事を書く。

テレビ記者としてニュース番組をつくろう。

- ・ニュース作りで必要なことは、5W1Hだね。
- ・新聞とは違って、映像や音楽があるよ。
- ・テレビ番組だから、時間を決めなきゃいけないね。
- ・出来事が分からないと、ニュース原稿は、書けないよ。

- ◎E・Kさんのテレビニュースを作って見たいという思いを紹介する。
- ◎テレビのニュース作りに必要な事項を話し合う。
- ◎どうして火事が起こったのか、どんな状況だったのかを調べ、必要なことをメモするように伝える。

- <出来事>
- ・夕方6時ごろ、グランドホテルで火事があった。
 - ・映画の記者会見をやっていた。
 - ・監督の加藤正樹氏が記者会見をやっていた。
 - ・人気歌手の山田愛が食事をしにきていた。
 - ・厨房から勢いよく煙が出た。

- ◎操作に躓いている児童がいないか、全体に気を配る。
- ☆出来事については、ペアになって調べることで、互いの気づきを共有する場とする。
- ◎出来事について調べにくそうなペアには、調べ方ヒントカードを渡す。

- <映像>
- ・火事のことをアピールできるものを選ぼう。
 - ・有名な人が助けを求めている映像にしよう。
 - ・激しく燃えている所を撮影しよう。

- ・なんとなく、この映像がおもしろそう。
- ・どうやって選んだらいいのかが分からない。

◎意図して映像を選んでいる子どもには、記者としていい仕事をしていることを伝え、その気にさせる。

◎何となく映像を選んでいる子どもには、選んだ場面がどんな場面なのかを語らせることで、選んだ意図を意識できるようにする。

◎制作活動中は、子どものつぶやきやよい教え合いを教師が認め、全体にその表れを伝える。

- <原稿>
- ・映像と取材メモを見ながら、原稿を書けばいいんだな。
 - ・30秒にするには、言葉を選ばないといけないな。
 - ・映像に合わせて練習してみよう。

◎映像と原稿が合っているのかを意識させる。場合によっては、映像の順番を変えてもよいことを伝える。

○テレビニュースを伝え、感想を伝え合う。

- ・火事を伝えるニュースができて、よかった。
- ・時間を意識して原稿を書いたから言葉を選んだ。

(評) 意図して3枚の映像を選び、映像にあった記事を書く。(ワーク・活動)

第6学年1組 国語科学習指導案

富士市立田子浦小学校

指導者 吉野 和美

後藤 綾子

- 1 日 時 平成21年12月10日（木）第6校時（6年1組教室）
- 2 単 元 名 メディアを学ぶ「ニュースを読み解こう」（10／10時）
- 3 本時の目標 発信者が異なると、情報の切り取り方が違うことに気付く。
自分自身の考えで情報を判断していこうとする気持ちを高める。
- 4 授業構想

前時に「放送記者坂井マヤ」を使って自分がニュースにした三つの場面を選び、記事を書いている。本時は、それぞれに、三つの場面を選んだときの気持ちや意図に焦点をあてながらすすめ、最終的には、自分はどのように情報を受け止めていくのかを考える時間である。

はじめに、前時の学習を振り返る。ここでは、映像を選ぶのがおもしろかったとか、ニュースとは関係ない場面は選ばないようにしたとかなど、記者として映像を撮り、伝えたい場面を選んだ楽しさと難しさをたっぷり発言させる。そして、なぜ、自分はこの場面を選んだのかその理由を述べさせることで、人によって放送場面を選ぶ思いや意図が違うことに気付かせたい。

子どもたちが選んだ放送場面は、ある一場面からそれぞれがほしいところをカメラフレームから見える映像として切り取ったものである。そこで、もととなる場面からどれくらいのカメラフレーム（放送シーン）が切り取れるのかを子どもたちに想像させ、その後、実際にクラスの実態をグラフにしたものを紹介する。この活動を通して、人によって場面の切り取り方が異なり、その切り取り方は何通りもあることを知らせたい。

本学級の子どもたちが選んだ場面は、全部で27場面である。この27場面のうち、犯人らしき人が火災現場から立ち去る場面を選んだ児童は、31人中17人であった。クラスの半数の児童が、この場面を選び、半数の児童が選ばなかったことになる。そこで、どうしてその場面を選んだのか、あるいは、どうしてその場面を選ばなかったのかを話し合わせることにする。この話し合いでは、選ぶ時点で記者の判断が入っていることや、その判断は、人によって違うことを浮き彫りにさせたい。

普段私たちはニュースを発信する側ではなく、受信する側である。そこで、記者によって映像の切り取り方が違うことについて、ニュースの受信者としてどう思うのかを考えさせたい。これらの活動では、私たちに届けられるニュース（情報）は、記者（人）を通して私たちのところへ届けられていることを更に意識し、その情報を切り取った人がだれなのかを立ち止まって考えるようにしたい。

最後に、国語の教科書に書いてある『自分自身で考えて情報を判断できる』とは、どういうことなのかを今までの学習を基にして考える。ここでは、教室に掲示してある学習の足跡を参考にしながら情報を自分で判断する大切さにふれる子や、今までの学習を意識して情報を受け取って行きたいと語る子どもの姿を期待し、情報社会を生きていくために必要な力の一つである「自分で情報を判断することの大切さ」をまとめ、授業を終えるようにしたい。

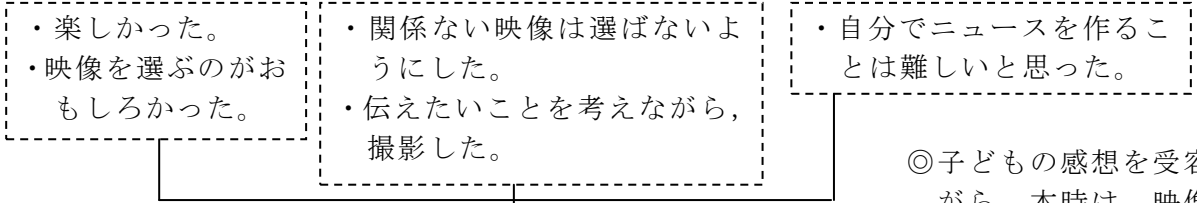
5 予想される本時の追究

学習課 子どもの表 まとめ

○児童の活動 ◎教師の働きかけ ☆研修とのかかわり（評）評価

○前時までの学習を振り返る

◎子どもの感想は、分類しながら板書する。

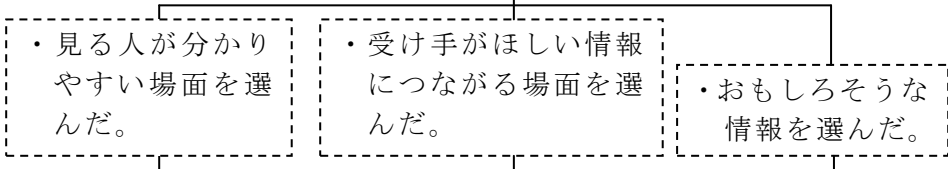


情報を判断することについて考えよう。

◎子どもの感想を受容しながら、本時は、映像を選んだときのことに目が向くようにすすめる。

○選んだ映像について考える。

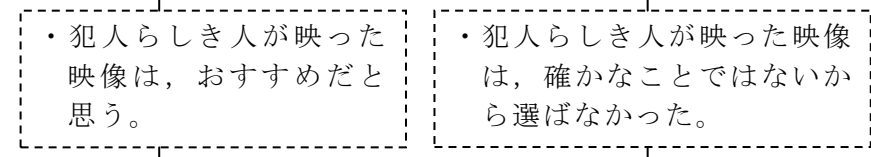
◎場面を選ぶときに気をつけたことを発表することで、場面を選んだ理由を明らかにする。



◎1枚の映像から、いくつかの場面が切り取れたかを予想し、いろいろな切り取り方があることに気付くようにする。

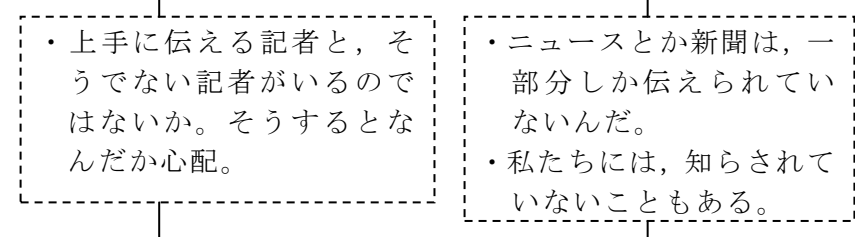
1枚の映像からいくつもシーンが切り取れるんだね。人によって、伝えたいことが違うんだね。

◎3人選んだ場面でも、使用したのは、17人であることを目を向け、人によって選ぶ視点が異なることを気付くようにする。



○受信者側の立場に立って選択や編集について考える。

◎記者によって映像の切り取りが違うことを受信者側になって考える。



◎情報を切り取っているのは誰なのかを意識させる。

○国語の教科書の最後の書いてある『自分自身の考えで情報を判断できる』ことがなぜ必要なのか考える。

◎今までの学習を振り返り、情報を判断することはどういうことなのかを自分の言葉でまとめる。

いろいろな人が情報を発信していて、同じことでも情報の選び方が違う。それらの情報を受ける私たちは、そのことを意識した上で、情報を受け止めていこうと思う。

(評) 情報を自分で判断する大切さが分かる
(話し合い・ワーク)